

Lesson 4 Pentatonic Scale 3 Third Fingering

Lesson 4 ペンタトニックスケール3 3つ目の運指

今回はペンタトニックスケールの3つ目の運指を学ぼう。

このパターンでは、こんな感じで左手を大きく広げる必要があるよ。

-playing(0:11)-

(6弦開放Eを含めて)6弦上で4つの音を弾く。

(0:25)

こんな感じで上がって行くよ。

(0:40)

手が慣れるにはある程度の時間がかかるから焦らずにね。

繰り返しになるけど、大切なのはフレット上のどこに何の音があるかを把握すること。

(1:01)

もう一度。

まず6弦開放E、次に人差し指で6弦3フレットG、そして次の6弦5フレットAは薬指でもいいけど、僕は中指でやっているね。

あと、次の6弦7フレットBは小指で弾いているけど、小指の力の弱さを補うべく、無意識に他の指を添えて強化している。

小指で押弦する時に、他の指(中指と薬指)を合わせた3本が重なり合う形になる。

それによって小指の力が増すわけだね。

(1:55)

ということで、(6弦開放Eの次に)人差し指で6弦3フレットG、中指で6弦5フレットA、そして小指で7フレットのBだね。

ここからは、各指がいる位置をそのまま押弦する感じで…人差し指がここ(5フレット)…ここ…

次が戻って(3弦4フレット)…そして短3度分上がって(3弦7フレット)…

-playing(2:48)-

【注記】

- ・押弦するポイントについてRobbenは様々な言い方をしていますが、ここでは「5弦3フレットC」「6弦開放E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robbenの実際の言葉とは若干違った表現になっている箇所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robbenが言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robbenの言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいうように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳 山岸敦